

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	遠藤 央
学歴	昭和56年 3月 国際基督教大学教養学部社会科学科卒業 昭和60年 3月 東京都立大学大学院社会科学研究科(修士課程)社会人類学専攻修了 平成 2年 9月 東京都立大学大学院社会科学研究科(博士課程)社会人類学専攻単位取得満期退学 平成13年 2月 博士(社会人類学 博第71号)東京都立大学大学院社会科学研究科				
学位	昭和60年 3月 文学修士(東京都立大学) 平成13年 2月 社会人類学博士(東京都立大学 博第71号)				
専門分野	東南アジア・オセアニアの社会人類学、家族・ジェンダー論、帝国研究				
専門資格					
所属学会	昭和57年 4月 東京都立大学社会人類学会 昭和58年 4月 日本オセアニア学会 評議員・理事(情報化担当)「平19.4-平21.3」、評議員・理事(英文学会誌編集担当)「平23.4-平25.3」 昭和60年 4月 日本文化人類学会(旧日本民族学会) 昭和60年 6月 比較家族史学会 平成16年 4月 日本国際文化学会(会計監査「平22.4-24.3」、常任理事「平25.4 -平27.3」)				
受賞					
担当授業科目	学部 現代社会基礎演習、文化人類学演習 ・ 、卒業研究演習 ・ 、現代世界と文化人類学、オセアニア社会論、家族・ジェンダー論、ガバナンス論、文化人類学外国語文献講読 大学院 地域文化研究 (東南アジア研究)、地域文化研究演習 (東南アジア研究)				
論文指導	論文指導担当[主査](卒論:2名) 修士論文副査(1名)				
教育実績(FD活動)	日本国際文化学会では「文化創成コーディネーター(仮称)」の資格認定制度を計画中であり、理事会で本学の文化コーディネーター資格取得者の資格認定のあり方などを紹介した。				
その他の教育実践活動実績	特になし。				
H25年度研究課題	学部・大学院共通 1. 日本を含む外来権力の重層下で形成される歴史認識 台湾と旧南洋群島の人類学的比較(継続) 2. グローバル・ガバナンスの人類学的研究(継続)				
平成二十五(2013)年度の研究活動の概要	1の課題に関して、広島大学で開催された日本台湾学会(5月25,26日)の第15回学術大会において、「台湾とパラオにおける植民地経験 接触領域にみる「日本」と題する分科会をおこなった。まず分担者の西村(日本女子大学・人間社会学部・講師 西村一之)が趣旨説明をおこない、引き続き「台湾東海岸における「日本」とのつながり 日本化から中華化のあいだで」として、重層的植民地経験の振幅を発表した。つぎに、石垣(沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 石垣直)が「交錯する植民地経験 台湾原住民・ブヌンと「日本」との衝突・接触・邂逅」というタイトルで、人々の人生において大きな影響を持った植民地経験を軸にして第1世代から第4世代まで分類し、考察をおこなった。「親日」から「反日」への変化、中国人意識や原住民意識の浸透の度合いなどが明瞭に提示された。 休憩を挟んで、「旧南洋群島」に関するセッションを行った。三田(神戸学院大学・人文学部・准教授 三田牧)は、「古きよきパラオ」の語られ方にみる日本統治経験 パラオ、日本、アメリカの価値観をめぐって」として、公学校で日本語教育を受けた世代の人々の語りの特徴を、価値観をキーワードにして分析した。				

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (2/4)

<p>平成二十五(2013)年度の研究活動の概要 つづき</p>	<p>飯高(高知県立大学・文化学部・講師 飯高伸五)は「旧南洋群島における日本人移住者と現地人の「ハーフ」がたどった戦後史」として、「島民」と「日本人」とのあいだに生まれた人々のライフ・ヒストリーをたどりながら、その経験の重層性を論じた。その後、遠藤がおもに後半のセッションについてのコメントを、植野(東洋大学・社会学部・教授 植野弘子)が前半のセッションに関するコメントをおこなった。発表時間が30分程度あったため、事実確認の質問も含めて、興味深い議論がおこなわれた。「個別性」がやはり重要であるという指摘や、「大日本帝国」のあり方も考察の対象として重要ではないか、というコメントがフロアからあり、今後の研究の方向性を再確認できた分科会となった。</p> <p>8月には台湾において短期間のフィールドワークをおこなった。嘉義では明治44年に開園式がおこなわれたという嘉義公園を見てまわった。日本統治期に嘉義神社であった場所は忠烈祠となっているが、灯籠などはきれいに保存されており、寄進者の名前、寄進の日付なども確認できる状態であった。また、社務所は外側はかなり痛みが激しいものの、なかはきれいに修理され、嘉義史蹟資料館として、歴史の展示、解説をする場として利用されている。市内には日本統治期の建物がかなり残っているが、古蹟としての表示は見られず、現在も家屋や店としてそのまま利用されている。この点は、台北、台南、花蓮などとの大きなちがいである。</p> <p>嘉義博物館では、特別展示として、東京美術学校を卒業後、日本や台湾で創作活動をおこなった画家陳澄波の作品や遺品が展示されていた。年譜によれば、二二八事件で公開処刑されたのち、三〇年ほどは作品展すら開催されず、七〇年代になってようやく復権したようである。このように、日本統治時代を生きた人びとの作品などは、台南の国立文学館でも自筆の原稿なども含めて展示されるようになった。</p> <p>台南では、修復工事を終えた林百貨店が6月から公開され、新聞報道によればすでに八万人をこえる訪問者があったという。人々が珍しがって見物に来たというエレベーターも外見は当時のかたちで復元され、爆撃や銃撃のあとみることができる。11時と2時には解説付きのツアーも開催されている。ちかくの法院も現在改修工事中であり、台南では観光資源としての日本統治時代が関心を集めている。この点が、嘉義との大きな相違点であろう。</p> <p>2の課題に関しては、ガバナンス論の授業において、教科書である杉田敦著『政治的思考』(岩波新書)の「討議」と「権力」の章を解説しながら、その背景にある概念を説明した。</p>
<p>平成二十五(2013)年度 の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分科会「台湾とパラオにおける植民地経験 接触領域にみる「日本」」(コメンテーター) 平成25年5月、日本台湾学会第15回学術プログラム、広島大学 2. 日本オセアニア学会英文誌編集担当理事として、People and Culture in Oceania vol. 29の編集を担当し、論文3本、コミュニケーション1本を掲載した。(平成26年3月初めに刊行) <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成25年 8月-9月 台湾におけるフィールドワーク(台湾周辺) (科学研究費補助金課題番号22251012:後述)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成22年度-平成25年度 科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「日本を含む外来権力の重層化で形成される歴史認識 -台湾と旧南洋群島の人類学的比較」(課題番号22251012、研究代表者:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授・三尾裕子)研究分担者</p> <p>(学内活動)</p> <p>就職委員会委員、大学院委員会委員、「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員長</p>
<p>平成二十五(2013)年度の 社会における活動</p>	

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (3/4)

平成二十二年(2008)～二十四(2012)年度の主な研究成果等

(著書)

- 『オセアニア学』、共編著、平成21年10月、京都大学学術出版会、監修：吉岡政徳、共編者：印東道子他、592p
- 「出自と母系制」、共著、平成24年5月、時潮社、河合利光編著、『生命継承と親族』(pp.75-97, 251p)
- 「脱植民地期パラオにおける公共圏の問題系 ミクロネシア・沖縄問題の設定に向けて」、共著、平成24年12月、昭和堂、柄木田康之・須藤健一編、『オセアニアと公共圏 - フィールドワークからみた重層性』(pp.189-202, 274p)
- 「イ工概念の再検討」、共著、平成25年2月、風響社、小池誠・信田敏宏編、『生をつなぐ家親族研究の新たな地平』(pp.55-70, 342p)

(論文)

- Hisashi Endo 2009 “The Location of Ethnicity and Spatial Segregation in Metropolitan Area, Malaysia” in Toh Goda (ed.), *Urbanization and Formation of Ethnicity in Southeast Asia*. Manila: New Day Publishers. pp. 146-158.
- 第 部 植民地化と近代化「総論」、共編著、平成21年10月、京都大学学術出版会、オセアニア学 (pp.295-303)
- “The beginning of the ‘Postwar Period’: Japan and the United States of America as Un-decolonized Alien Powers to Micronesia (Nan’yo gunto)” paper read at Academia Sinica, Taipei, on December 28, 2010, 9p. 科研シンポジウム「外来権力(含日本)多層累積形成的歴史認識」台北研究会、中央研究院民族學研究所
- The Beginning of the ‘Postwar Period’ Japan and the United States of America as Un-decolonized Alien Powers to Micronesia (*former Nan’yo gunto*)、単著、平成25年3月、京都文科大学 総合社会学部研究報告第15集 (pp.1-9)

(学会報告、学会活動)

- 「マレーシア映画(マレー語映画)産業史とマレー・エスニシティの形成」、単独、平成20年7月、日本国際文化学会第7回全国大会、文教大学国際学部
- 平成21年度 国際文化学会 会計監査担当
- 平成22年 4月-平成24年 3月 日本国際文化学会 会計監査
- 平成23年 3月-平成25年 3月 日本オセアニア学会評議員、理事(英文学会誌 *People and Culture in Oceania*編集担当:論文査読者の選定、査読後の訂正、英文校閲など)
平成24年度 第28巻を無事に出版することができた。(論文、コミュニケーションあわせて4本を担当)
- 報告2:飯高伸五(高知県立大学)「ミクロネシア・パラオ諸島における太平洋戦争の記憶のせめぎあい」(コメント)、平成23年10月、日本文化人類学会中四国地区研究会第36回、広島大学
- 発表題目:紺屋あかり(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科)「言語芸術の継承ベラウ古典歌謡の事例から」(コメント)、平成23年12月、日本オセアニア学会2011年度関西地区研究例会、京都大学
- 平成23年 4月-平成25年 3月 日本オセアニア学会 評議員・理事(英文学会誌編集担当)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

- 翻訳・解説:
- 「パラオ 難破から深まる原住民との接触」、共著、平成20年6月、岩波書店、歴史学研究会編、世界史史料 9 帝国主義と各地の抵抗2 東アジア・内陸アジア・東南アジア・オセアニア(pp.396-398)

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一年(2008～2012)年度の主な研究成果等	(調査活動)	平成20年 9月	パラオ共和国、北マリアナ諸島自治領、グアム (科学研究費補助金課題番号17202024：後述)
		平成22年 8月- 9月	マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、グアム (科学研究費補助金課題番号22251012：後述)
		平成22年12月-平成23年 1月 平成23年 8月	台湾(科学研究費補助金課題番号22251012：後述) マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、米国 (科学研究費補助金課題番号22251012：後述)
		平成23年12月- 1月 平成24年 8月 平成25年 3月	台湾(科学研究費補助金課題番号22251012：後述) 台湾におけるフィールドワーク(台中、霧社、高雄) 台湾におけるフィールドワーク(台北、花蓮)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)	平成17年度-平成20年度	科学研究費補助金(基盤研究A・一般)「高齢化社会と国際移住に関する文化人類学的研究：東南アジア・オセアニア地域を中心に」(課題番号17202024、東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 宮崎恒二)研究分担者(平成20年度のみ連携研究者)
		平成17年度-平成20年度	国立民族学博物館共同研究「家の人類学 新たな親族研究に向けて」(研究代表者：桃山学院大学・文学部・教授 小池誠)館外研究員
		平成18年度-平成21年度	国立民族学博物館共同研究「脱植民地期オセアニアの多文化的公共圏の比較研究」(研究代表者：宇都宮大学・国際学部・教授 柄木田康之)館外研究員
		平成22年度-(4年間)	科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「日本を含む外来権力の重層化で形成される歴史認識 - 台湾と旧南洋群島の人類学的比較」(課題番号22251012、研究代表者：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授・三尾裕子)研究分担者
	(学内活動)	平成18年 4月	海外出張助成調整委員会委員(委員長 平19.3まで)「平20.3まで」 共通教育委員会委員「平22.3まで」
		平成21年 4月	研究員派遣調整委員会委員「平22.3まで」 FD委員会委員「平23.3まで」
		平成22年 4月	人権委員会委員「平24.3まで」 教職課程委員会委員「平23.3まで」 図書館・情報(現・図書館)委員会委員「平25.3まで」
		平成23年 4月	自己点検・大学院委員会委員「平24.3まで」
		平成24年 4月	就職委員会委員「現在に至る」 広報委員会委員「平25.3まで」 広報誌編集委員会委員「平25.3まで」 学生相談室運営委員会委員「平25.3まで」
平成二十一年(2008～2012)年度に於ける活動		平成22年 5月	京都文教公開講座 「「第二の人生」を生きる」第1回講師、「海外での「第二の人生」 国境を越えて生活するということ」、於：京都文教大学